

“止まっている時間”は、リビングルームの拡張空間に
鴻海製EV「Model A」をベースに開発。コンパクトながらゆったりと過ごせる車内空間を実現した第二弾

EVの新しいコンセプトモデル「LDK+」を 「Japan Mobility Show 2025」で初公開

シャープは、“止まっている時間”にフォーカスし、「リビングルームの拡張空間」としての活用を提案するEV（電気自動車）のコンセプトモデル「LDK+（エルディーケープラス）」第二弾を開発しました。今回新たに、キーメッセージ「Part of your home」を掲げ、本年10月30日（木）から11月9日（日）まで東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催される国内最大級のモビリティイベント「Japan Mobility Show 2025」で初公開します。



「LDK+」（左：コンセプトモデル、右：キービジュアル）

当社は、昨年9月に「LDK+」のコンセプトモデル第一弾を発表しました。当社独自のAI技術「CE-LLM（※1）」やAIoT技術、センシング技術などを組み合わせて、EVと住空間、エネルギー機器をつなぎ、快適でサステナブルな暮らしを実現する、モビリティの未来を切り拓く新しいEVとして提案しました。

今回の「LDK+」第二弾は、コンセプトはそのままに、小回りの利くコンパクトボディとゆったり過ごせる車内空間を両立しました。鴻海科技集団（Foxconn）（※2）のEV「Model A」をベースに開発。コンパクトミニバンサイズながら、広々とした車内レイアウトを実現しています。

駐車時には、シアタールームやリモートワーク部屋としての活用を提案します。運転席と助手席の間には、テーブルやプロジェクターを備えたコンソールボックスを配置。運転席を後ろ向きに回転させると、後部座席と対面し、リビングのような空間が誕生します。後部座席上部に設置されたスクリーンをおろせば、映画を楽しんだり、大画面でオンライン会議をしたりできます。また、AIと家電をつないだ当社のAIoTプラットフォームを通じて、キッチンや空調、ランドリーなど家の中の家電とEVが連携。AIが生活パターンや好みを学習し、「人に寄り添う」新しいライフスタイルを創出します。さらに、V2H（Vehicle to Home）システムとも連携し、太陽光発電や住宅用蓄電池と組み合わせた効率的なエネルギーマネジメントを実現します。

当社は、未来の暮らしとモビリティが融合する新たな価値創造に取り組んでまいります。

※1 シャープ独自のAI技術CE-LLM（Communication Edge - Large Language Model）。エッジデバイスにAI技術を搭載し、必要に応じてクラウドAIもシームレスに活用。スムーズで心地よいコミュニケーションを実現します。AIがより身近になり、生活やビジネスシーンに自然に溶け込む世界を実現します。

※2 本社：台湾新北市、董事長：劉揚偉

- 本文に記載の機能やデバイスのうち、今回出展するコンセプトモデルには一部搭載していないものやモックアップでの展示のものが 있습니다。
- 「LDK+」「CE-LLM」は、シャープ株式会社の登録商標です。
- AIoTは、AI（人工知能）とIoT（モノのインターネット化）を組み合わせで創った造語であり、シャープ株式会社の登録商標です。

「LDK+」に関する情報は、以下のウェブサイトでご覧いただけます。

<https://jp.sharp/car/>

- 【ウェブサイト】 <https://corporate.jp.sharp/>（画像ダウンロード <https://corporate.jp.sharp/press/>）
- 【本社】 〒590-8522 大阪府堺市堺区匠町1番地
- 【お問い合わせ先】 報道関係者様：広報部 森 050-5357-5959 / kouhou-k@sharp.co.jp
お客様：sharp_ev@mail.sharp